

第32回ふる里山田同郷の会 都会で感じる山田に笑みこぼれる



参加者からは笑みがこぼれます



乾杯で懇談がスタート



八幡大神楽が舞を披露

6月17日、東京近郊に暮らす本町出身者が集い、交流を深める「ふる里山田同郷の会総会」が、文京区湯島の東京ガーデンパレスを会場に開かれました。32回目の開催となったことは200人以上が出席しました。総会に先立ち行われた「山田町関連報告」では、町の復興状況を町水産商工課の武藤嘉宜課長が説明。その他、船戸義和氏（岩手大学共同研究員）による災害公営住宅におけるコミュニケーション形成支援の説明や、トン・ファン・ゼイランド氏（オランダ王国大使館参事官）のオランダから山田町への支援活動報告も行われ、参加者は真剣に耳を傾けていました。また、平昌パラリンピックでの活躍が記憶に新しい本町出身の阿部友里香選手がパラリンピックの結果を報告するとともに、次の北京パラリンピックでのさらなる飛躍を誓うと、会場からは盛大な拍手が送られました。

続いて行われた総会では、平成29年度の事業報告や本年度の事業計画を審議。原案どおり承認されました。そして、懇親会がスタート。はじめに小川俣弘会長が「多くの人に出席いただきありがとうございます。来年もこのように集まれることを祈っています」とあいさつしました。続いて、佐藤信逸町長が「東京でご活躍の皆さんからエネルギーと刺激をいただけるこの会。今日は、皆さんと山田弁で話し、楽しみたい」と話しました。また、会場には鈴木俊一氏も駆け付け、祝辞を述べられました。懇談の時間は、昆暉雄町議会議長の乾杯の音頭でスタート。同郷の知人や友人と思い出話に花が咲き、参加者からは笑みがこぼれていました。アトラクションでは、八幡大神楽や町出身の歌手・堀トオルさんなどが登場。舞と歌で会場に花を添えました。最後は、山田に思いをはせながら「故郷」を全員で合唱。来年も同じ場所での再会を誓い合いました。



瀬川 多美子さん(63歳)〔後楽町出身〕

山田の人と語り合えるこの会を楽しみにしています。山田には年に1、2回帰りますが、仕事の関係で祭りの季節には帰ることができません。そのため、八幡大神楽を見ることができてとてもうれしかったです。今後、町が復興していく姿を見るのが楽しみです



内館 良次さん(66歳)〔八幡町出身〕

弟に誘われて今回初めて参加しました。とても楽しい会だと思います。祭りの季節に帰っていますが、銀行と商店が集まるまちづくりや立派な道路はすばらしいと感じています。来年は、自分の知り合いも誘って参加し、もっとこの会を盛り上げたいです。

参加者の声